

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2008～2009年度 国際ロータリー 李 東建（リー・ドンカン）会長テーマ

Make Dreams Real 夢をかたちに

創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 塚本 幸夫  
幹事 廣根 実  
会報委員長 今村 順

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2625回例会プログラム

[当年度=26回目；当月=4週目]

2009年（平成21年）2月23日(月)

## 1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 食事
- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告  
8. 幹事報告  
9. 出席報告  
10. 委員会報告  
11. ニコニコボックス報告  
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(3/2) ……  
卓話  
講師 愛知県刈谷警察署  
署長 中村 正孝 様  
(紹介者 杉浦世志朗 会員)
- (3/9) ……  
卓話  
講師 愛知教育大学  
学長 松田 正久 様  
(紹介者 毛受 豊 会員)
- 13:00 13. 本日のプログラム  
新入会員アワー  
伊藤 正宣 会員  
内藤 正 会員
14. 謝辞  
15. 点鐘……〈会長〉  
16. 閉会宣言
- 13:30 17. 散会

## 出席

会員総数 95名 出席免除 22名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 86名  
欠席 9名 出席率 89.53%  
前々回(2/9)の修正出席率 100%

## 会長報告

- 1) 次年度地区へ出向していただく委員が2名追加となり、その委嘱状が届きましたので、お渡しいたします。環境保全委員会委員・神谷龍司会員です。よろしく願いいたします。もう1人は、年次寄付委員会委員として私、塚本が出向いたします。
- 2) 地区より太田宗一郎会員に、会員増強推薦者バッチが届きましたので、お渡しいたします。
- 3) 2月13日、市民会館にて刈谷市交通安全推進協議会が開催され、出席して参りました。
- 4) 同じく2月20日、市役所にて刈谷市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会が開催され出席して参りました。皆様のご協力で中学2年生が各企業で5日間職場体験学習をさせていただきました。そして文科省より愛知、岐阜、三重でただ刈谷市教育委員会だけが表彰状をいただきました。

## 幹事報告

- 1) 3月のロータリーレートは、1ドル90円だそうです。少し上がりましたが、まだまだお得なこの機会にぜひ財団へのご寄付をよろしくお願いいたします。また米山奨学会の方もよろしくお願いいたします。
- 2) 3月21日の西三河分区大会には、理事・役員・委員長および入会5年以内の57名の方にご登録いただき、誠にありがとうございます。ただし主催者の辻村ガバナー補佐からは、まだ若干登録者が足らず財政が苦しいように聞いていますので、追加登録していただける方がいらっしゃいましたら、私か事務局までお申し出下さい。よろしくお願いいたします。

3) 本日例会終了後、第9回の理事会を行いますので、関係の皆様にはよろしくお願いいたします。

## 会長あいさつ

### 「おカネ」コレクション

塚本 幸夫



毎日当たり前のように自然に見たり触れたりしている「おカネ」。貨幣と紙幣とがありますが、紙幣には必ず「記番号」「通し番号」なるものが印刷されています。A123456AやBA123456Hなどは見たこともありますよね。

左側英字1桁、または2桁の頭記号でおおよその製造時期が、右側英字の末尾記号で印刷所(4カ所)が分かるようになっていきます。また、A-AやAA-Aなどは「記番号」と呼びます。中央の6桁の数字は000001～900000で「通し番号」と呼ばれ、記番号の組み合わせは1万4,400種となり、これに90万個通し番号を掛けると、なんと!!129億6,000万種となります。

その「通し番号」でまれに珍番号の珍品!?!があることを知っていますか。通称「1番」という000001と、「ゾロ目」という111111が人気度の高い番号です。ほかにも777777、888888が人気が高く、100000、900000などの「キリ番」や、123456、654321などの「階段」があります。

これらは珍番号といわれているだけあって、簡単には目にできないのです。だからこそ、発見したときの喜びは他人には見せられないほどでして……(失笑)。だから、やめられません。これを読んだあと、お財布の中の「おカネ」を見てみては?もしかしたら……。

いつもの「おカネ」も貯める、使うだけではなく、いろいろ知り、いろいろ楽しんでコレクションしてみるのがいいですよ!!

見るついでに、シークレットマークも探してみるのもおもしろいです。各紙幣の裏表に隠れています。ヒントはニ・ホ・ンのカタカナ文字です。ルーペを用意してチャレンジを。では幸運を……。

## 新入会員アワー

豊田自動織機 常勤監査役  
伊藤 正宣 会員



本日は、豊田自動織機の事業のひとつであります繊維機械について、お話しさせていただこうと思います。

我々が身につける物を作る機械が繊維機械です。産業用資材等もたくさんありますが、やはり衣料の類が圧倒的に多くなっています。

紡機で1本の糸を紡いで、その糸を織機や編機で織ったり編んだりします。染色や縫製等もありますが、紡機と織機が繊維機械の中心です。現在、世界中で紡機と織機の両方を作っているのは当社くらいです。

糸には綿糸、絹糸、化学繊維等がありますが、世の中では圧倒的に綿糸が多くなっています。その1本の細い糸で縦糸と横糸を交差させ、布に織り上げるのが織機です。繊維機械は我々の衣食住の「衣」に関わる、なくてはならない機械です。皆様の中でかなりの方が、当社の繊維機械で作った織物を身に付けていただいているという意味では大変ご縁が深いわけでして、この場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。

次に、織機のお話をさせていただきます。当社の社祖である豊田佐吉が「自動織機」なるものを発明したのが、当社の始まりです。それまでは、横糸の補給が途切れると織機が止まっていたのですが、佐吉は、横糸を運ぶ「杼(シャトル)」を機械を止めずに自動補給し、横糸が無くなったのを検知して瞬間的に杼を入れ替えることによって、織機の連続運転を可能にしました。

この自動織機により、少人数で効率的な生産ができるようになり、生産性が15倍、20倍と飛躍的に高まりました。織機というと古い機械のイメージを持たれがちですが、その後も技術革新が進み、現在は杼に代わり噴射圧で空気か水と一緒に横糸を飛ばしています。

しかし、この最新鋭機がさっぱり売れません。競争とか値段が高いという問題よりも、基本的に需要が乏しく、世界的には設備能力的に十分ということです。織機は大変長持ちし、生産性を別にすれば何十年でも動きます。また、当社の織機のイミテーションもずいぶん作られております。

当社はこれまで事業の多角化を図り、自動車、産業車両、物流とさまざまな事業に進出し、今や繊維機械事業の当社売上高に占める割合は2～3%になってしまいました。私自身、創立40周年の1966(昭和41)年に入社いたしました。当時、フォークリフトやエンジンの組み立てはありましたが、まだ繊維機械が中心でした。その頃と比べると、本当に会社も変わったなと感じます。

最後に、当社の社名についてお話しいたします。もともとは「豊田自動織機製作所」で、現在は「豊田自動織機」です。過去に何度か社名変更を検討しましたが、佐吉の発明した自動織機、そしてそれを生産する豊田自動織機という会社があって、今のトヨタグループがある、やはり時代は変わっても、自動織機の4文字はどうしても外せないということになりました。

そして、佐吉翁の創業の精神、豊田自動織機の社名に込められたベンチャー精神を決して忘れることなく、明日に向かってチャレンジし、新しいページを拓いて行こうということで、結果的に「製作所」を取っただけの変更となっています。

トヨタ紡織 常勤監査役  
内藤 正 会員



私は、いわゆる団塊の世代の1947(昭和22)年11月に名古屋市南区の笠寺で生まれました。

親父は、私が物覚えの付く頃にはサラリーマンから鉄工場を始めていました。子は親の背中を見て育つ、と言われますが、私もモノ造りの道を選び、1974(昭和49)年にトヨタ自動車工業に就職しました。

入社直前の1973(昭和48)年10月に、第一次石油ショックが起きました。入社教育で車の販売実習に行っても売れず、生産技術に配属された後も仕事が無く、定時帰宅が一般的でした。今は「100年に1度の経済危機」と呼ばれていますが、当時も同じような状況でした。

大学の同窓生で重工や造船関係の道を選んだ人たちが大変苦労したこともあり、私は結婚を機に、自分なりの生涯プランを考えるようになりました。当時は石油の危機でもあったので、ロシア経済学者のコンドラチェフが提案した資源危機論の50～60年の長期波動説に興味を持ちました。

その説では、1971(昭和46)年のニクソンドクトリンをピークに下降局面に入り1995(平成7)年頃が底で、次の山は2020(平成32)年頃らしいと述べられていました。そこで、1978(昭和53)年に鳴海に土地を購入し、1982(昭和57)年に家を建てました。

一方、仕事面では、自動車の排気ガス対策規制の強化もあり、エンジンの排気ガスを自動調整する機械を開発・実用化しました。さらに、機械技術だけでなく、電子・情報の勉強もしたいと思っていた折、同じ建物にいた電子と情報の専門家から、終業後に教えてもらいました。

係長時代の1984(昭和59)年には、トヨタがGMと米国で合弁会社を設立しました。この時期、私はインフォーマルなトヨタ技術会活動を仰せつかっておりました。会社組織は、縦のラインの仕事では大変効率が良い反面、ラインから外れた仕事やインフォーマルな活動は大変難しいと痛感しました。

90年代半ばには、世界の自動車会社が競ってIT化を推進し、トヨタも生産方式のIT化、ETC事業化、電気自動車のモーター開発等を強力に推進しました。この時やっと、勉強してきた電子と情報技術を活用することができました。

2004(平成16)年10月、トヨタ紡織とアラコの統合合併と同時に子会社の社長として3年弱、アメリカに夫婦で駐在しました。合弁会社でしたので、日本とアメリカとの考え方の違いや歴史観等、トップとして自分の考えをきちんと持っているかを試され、鍛えられ、大変良い経験をさせていただきました。

最後に、昨年4月に中部IE協会のアジア調査団団長として、インドと中国の中山、珠海を調査した時のことをお話しします。インド工科大学の学生に、将来はどこで働きたいか聞いたところ、「日本」ではなく、ア

メリカのNASAに行って研究したいとのことでした。新興国から見て、アジア圏で信頼に足る、期待される日本、日本企業、日本人なのだろうかと考えさせられました。

今、KYな(空気の読めない)日本人にならないために必要なのは、国際ロータリー李東建会長の「よーし!」という精神力かもしれません。

第9回理事会

- I 会長挨拶 〈会長〉
- II 議題
  - 1. 3・4月のプログラム(案)について 〈クラブ奉仕委員長〉  
〈プログラム委員長〉
  - 2. 創立55周年記念例会について 〈55周年実行委員会〉
  - 3. 花見例会について 〈幹事〉
  - 4. 健康診断について 〈職業奉仕委員長〉
  - 5. 刈谷山車祭について 〈社会奉仕委員長〉
  - 6. スペシャルオリンピックス(SO)について 〈社会奉仕委員長〉
  - 7. 各種表彰について 〈幹事〉
  - 8. その他